

# 4.1 忽那諸島

## (1) 忽那諸島の瀬戸内海における位置付け



国土数値情報の「海岸線」及び「行政区画」をベースに、その他情報を追記 出典は後にまとめて掲載

### 1) 瀬戸内海の概要

瀬戸内海は本州西部、四国、九州に囲まれた日本最大の内海である。海域は 12 に分けられており、●個の有人島、●個の無人島が立地する。瀬戸内海式気候で知られるように、周辺が山地や陸地に囲まれているため年間を通して安定した気温で保たれているのが特徴の気候である。外洋から影響を受けにくい閉鎖性海域であるため津波災害は少ないが、外洋との水質交換が悪く水質汚濁や富栄養化が起こりやすい。ただし、瀬戸内海は海峡や島嶼などが多い複雑な地形になっており、世界有数の潮流海域でもあることから、潮の干満差が大きいことや栄養塩が混ざりやすく多種多量な魚が集まりやすく漁業が盛んに行われている。

### 2) 12の海域と24の諸島

瀬戸内海には 691 の島があり、そのうち多くの島が 28 の諸島に分類される。都道府県別にみれば、広島県が島嶼数 (142)

及び諸島数 (7) が一番多い。愛媛県は、広島につぐ島嶼 (133) を有し、諸島は 7 つと広島県と同数である。諸島は、12 に分類される海域に跨がるものも多い。

### 3) 多島海景観と観光

各諸島は独自の歴史の変遷をたどってお

<p>・愛媛県</p> <p>諸島数   7</p> <p>島嶼数   133</p> <p>離島面積   94.5 km<sup>2</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 忽那諸島</li> <li>— 魚島群島</li> <li>— 上島諸島</li> <li>— 越智諸島</li> <li>— 関前諸島</li> <li>— 米島群島</li> <li>— 宇和海諸島</li> </ul>	<p>・山口県</p> <p>諸島数   6</p> <p>島嶼数   127</p> <p>離島面積   64.6 km<sup>2</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 瀨灘諸島</li> <li>— 萩諸島</li> <li>— 周南諸島</li> <li>— 熊毛郡島</li> <li>— 周防大島諸島</li> <li>— 柱島諸島</li> </ul>	<p>・徳島県</p> <p>諸島数   0</p> <p>島嶼数   24</p>
<p>・広島県</p> <p>諸島数   7</p> <p>島嶼数   142</p> <p>離島面積   77.3 km<sup>2</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 安芸群島</li> <li>— 浦刈群島</li> <li>— 下大崎群島</li> <li>— 上大崎群島</li> <li>— 芸備群島</li> <li>— 備後群島</li> <li>— 走島群島</li> </ul>	<p>・香川県</p> <p>諸島数   2</p> <p>島嶼数   112</p> <p>離島面積   169.1 km<sup>2</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 塩飽諸島</li> <li>— 直島諸島</li> </ul>	<p>・福岡県</p> <p>諸島数   1</p> <p>島嶼数   6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 筑前諸島</li> </ul>
<p>・岡山県</p> <p>諸島数   3</p> <p>島嶼数   87</p> <p>離島面積   22.8 km<sup>2</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 児島諸島</li> <li>— 笠岡諸島</li> <li>— 日生諸島</li> </ul>	<p>・兵庫県</p> <p>諸島数   1</p> <p>島嶼数   57</p> <p>離島面積   18.5 km<sup>2</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 家島諸島</li> </ul>	<p>・大分県</p> <p>諸島数   1</p> <p>島嶼数   3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 豊後諸島</li> </ul>

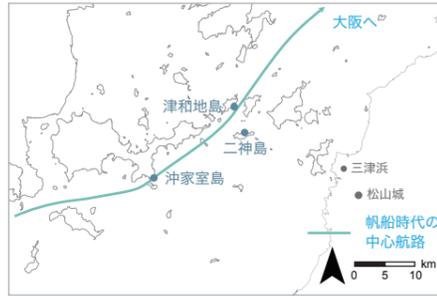
瀬戸内海の島・諸島の数と面積\*

(諸島数・諸島名は日本の島へこう HP、島嶼数は瀬戸内海環境情報 HP、面積は離島振興計画を参考に作成)

\*島嶼数は領海法で定義された海域における個数を示している



忽那家文書 (松山市 HP)



江戸～明治時代の航路 (中島町誌を参考に作成)

## (2) 忽那諸島の歴史

忽那諸島は、愛媛県松山市の有人 9 島を含む大小 30 以上の島々で構成されている島嶼群である。広島県・山口県との県境に位置し、広島湾、安芸湾、伊予灘の三つの海域の境界にまたがる。その立地特性から、中世の海軍拠点の歴史や、近世には潮待ちの場として機能したといわれる。近代以降は、柑橘栽培の適地として政策的に、瀬戸内の海や多島美の風景はそこを訪れる多くの人を魅了している。

### 1) 有史以前

怒和島や二神島南東沖には網にかかったナウマンゾウの歯牙が発見されており、瀬戸内海が海になる以前から人類が居住していたことが分かっている。縄文、弥生、古墳時代の遺跡や遺物が発見されていることから、忽那諸島は先史時代から現在まで悠久の歴史が続いてきたことが伺える。

### 2) 忽那氏による開発

忽那氏は、平安時代末期ごろ忽那島 (現・中島) の開発領主として登場し勢力を築いた海の中世豪族である。鎌倉時代には地頭職に人分され、南北朝時代には主に南朝方として活躍した。忽那家の出自は諸説あるが、忽那家文書によると、十一世紀に藤原道長の子孫がこの地に配流されたことに始まるという。

### 3) 水軍

忽那氏が瀬戸内海上勢力の雄の水軍として世に知られるようになった 1330 年代の南北朝の時代、忽那義範は醍醐天皇の皇

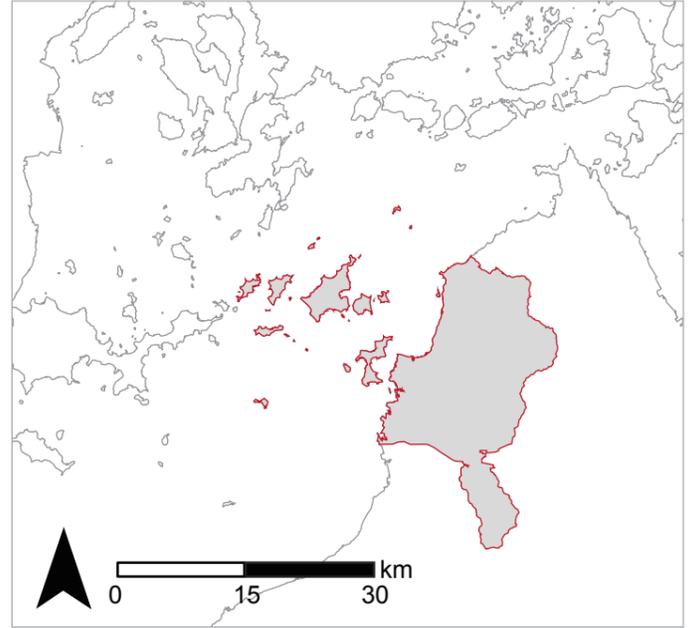
子懐良親王が九州へ下る途中で忽那島に立ち寄った際には 3 年にわたって保護し、伊予国の河野氏や安芸国の武田氏らを撃退した。これらの戦功で、広島県の安田郷や灰田郷の地頭にも任ぜられ、小早川秀秋に滅ぼされる江戸時代まで芸子・防予諸島海域に勢力を振るうことになった。これら水軍の活動は近世の帆船商運に受けつがれ、「牛船」・「割木船」から粟井の廻船業に発展し、また、津和地をはじめとする諸港のにぎわいや陸月・野忽那の行商活動を促すことになった。

### 4) 潮待ち

江戸時代、忽那諸島は瀬戸内海の海上交通の結節点であった。風よけ、潮待ちとして良港でその便利さゆえに朝鮮・オランダの使節、幕府の公用船や大名の参勤交代船の運行、商用船などの海運に大きく貢献した。松山藩は、海上交通の要地である津和地に接待所である茶屋を置き、人々をもてなした。また商船は港で商売をし、宿泊所や遊び場もできたため、周辺の島々や土地が潤うこととなった。

### 5) みかんの栽培

中島で温州みかんの栽培が始まったのは 1880 年ごろで、中島からの木綿織の行商人が和歌山から苗を持ち帰って植えたのが始まりとされる。中島村長らを中心として栽培研究が行なわれ、換金作物として生姜とともに栽培されるようになった。また、立地的有利を生かしていち早く阪神に市場を求めたことで、中島のみかんを印象付けることとなった。その後忽那諸島のみかん



松山市の行政区画 (国土数値情報 (1/1000) の「海岸線」及び「行政区画」を用いて作成)

栽培は拡大し、1964 年には中島町の柑橘産額は三万トンの大台を突破するまでに

### 6) 離島振興

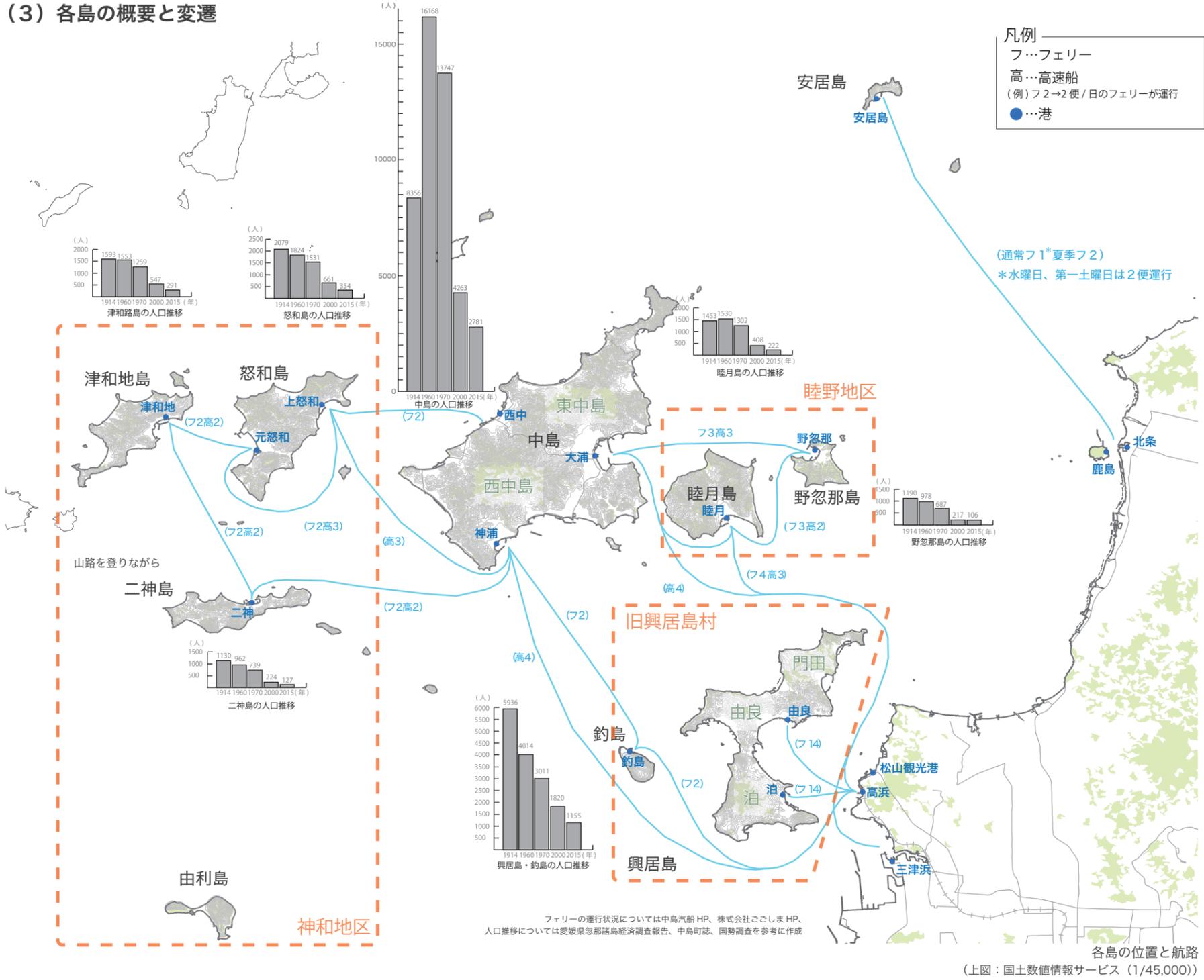
松山市では、島嶼部の持続的な発展と活性化を目的に、平成 24 年度から 10 年間で対象期間として「松山市愛ランド里島構想」を策定した。これに伴い農水産業をはじめ地域資源を活かした産業の振興や次代を担う人づくりなど、離島の産業振興に取り組むための計画や活動が行われている。

その好立地を生かし、海水浴場やキャンプ場、レンタルサイクルによるサイクリングなどの体験型の観光地化が進められた歴史がある。現在も地元住民による美しい自然や立地を生かした活動により、都市ではできない体験を提供している。また、近年は人口減少に伴う空き家を再利用した住居の提供や、農業援助などの支援により、離島への移住者を募る活動が行われている。



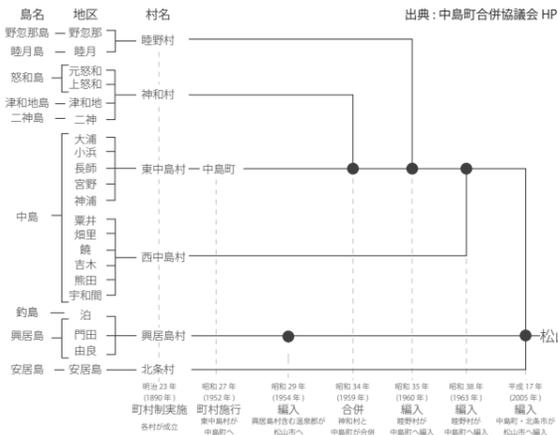
忽那諸島の多島風景 (筆者撮影)

### (3) 各島の概要と変遷



#### 1) 忽那諸島の系譜

明治時代に町村制度が実施され、島々は各村に区分された。現在も怒和島・津和地島・二神島を神和地区、陸月島・野忽那島を睦野地区、中島を東中島と西中島に分けて区分されることが多いが、旧村地区の区分けの名残りである。昭和以降、編入と合併を繰り返し、各島は現在のように松山市の所属となり、9島はまとめて忽那諸島と呼ばれるようになった。



#### 2) 人口の推移

忽那諸島は昭和後期の都市への流出や少子高齢化など、人口減少の一途をたどっている。エンジン船が普及し以降、海上交通の拠点であった忽那諸島の産業は陰を潜めた。1960年代には25000人以上あった人口は、5000人を下回り、高齢化率は50%を超えている。松山市は令和7年には約3300人にまで減少し、高齢化率は70%を超えると推計している。島の住宅の多くは空き家となっているが、それを再利用し移住を促進する、空き家バンクや移住プログラムなどが実施されている。

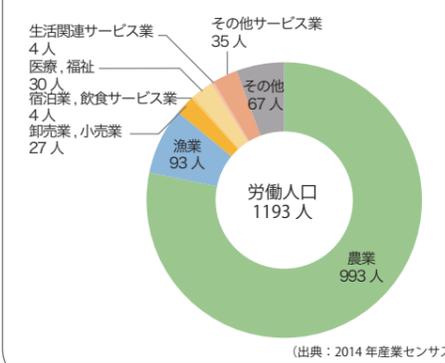
#### 3) フェリー交通

忽那諸島の交通は、松山本土から出港するフェリーや高速船が主要である。本土から近い興居島へは1日14本出港、中島へは1日16本出港しているが、本土から距離のある神和地区へは1日4本の出港となっている。旧中島地区の海上船の運行を運営する中島汽船は、2018年にバリアフリーや災害時対応を想定した新造船「ななしま」を就航し、海上交通の新たなシンボルとして忽那諸島と松山を繋いでいる。

### 2) 忽那諸島の就業者と農業経営状況

#### 旧興居島村

##### 【事業所数・事業者数】



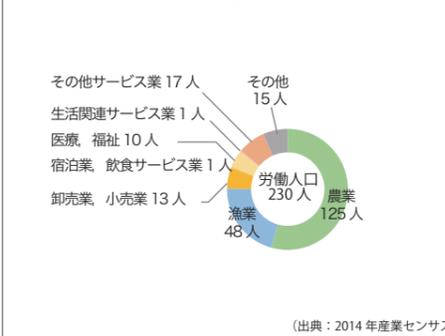
##### 【農家経営体・農地面積割合】



興居島と釣島が属する旧興居島村の産業は、柑橘栽培をはじめとした果樹農業が中心である。島民の75%以上は主要産業として農業に従事しており、農地面積の95%以上は果樹園であり島嶼全体にみかん畑が広がる。

#### 睦野地区

##### 【事業所数・事業者数】



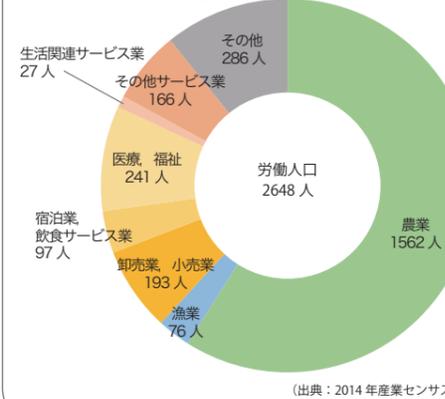
##### 【農家経営体・農地面積割合】



陸月島と野忽那島が属する旧睦野村は、半農半漁の地区である。漁区に礁や洲の良好な漁場を有しており、行商と共に漁業によって島の経済を支えてきた。現在では規模が縮小しているが、漁業従事者の割合は忽那諸島で最も高い。

#### 中島

##### 【事業所数・事業者数】



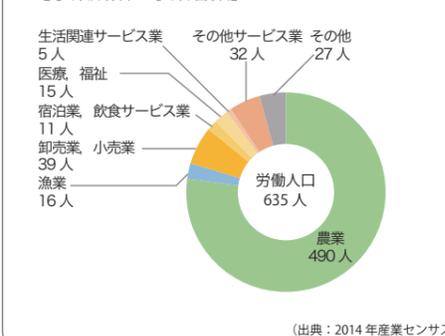
##### 【農家経営体・農地面積割合】



中島は忽那諸島の島民の生活や観光産業を支える拠点である。他島と比較し、卸売や小売、宿泊サービスなどの第三次産業にも300人近くが従事している。なかま中央病院をはじめとした医療・福祉も整備され、多くの島民に利用される。

#### 神和地区

##### 【事業所数・事業者数】



##### 【農家経営体・農地面積割合】



怒和島、津和地島、二神島が属する神和地区は、島民の多くが農業に従事している。生産品の多くは玉ねぎであり、農地面積の90%は畑となっている。